



## ◆11月の歳時記◆

### 『川の恵みの日』 ～武庫川～

十一月一日は『川の恵みの日』ですが、今回は、阪神間の人にとっては「母なる川」である武庫川にスポットを当ててみたいと思います。私たちに馴染みのある武庫川のイメージは、丹波篠山の源流から長い旅を経て大阪湾にそそぐ直前の穏やかに水を湛えた姿ですが、その昔、武庫川は「暴れ川」「摂津の人取り川」と伝えられ、古くから何度も氾濫を繰り返しました。浸食堆積作用によって天井川となった武庫川は、一旦大雨になると砂礫や大石を運ぶ大変な暴れ川で、古文書などにも、尼崎の時友村や常吉村など村ごと流出したとか、尼崎城まで浸水したとか、その甚大な被害の記録が多く残っています。

それとは逆に、通常の武庫川の水量は少なく、水を巡って村同士の争いは壮絶を極めます。一五九一年、鳴尾北郷樋門をめぐって乱闘。五十余名が処刑。一六四七年生島井組（いくしまゆぐみ川水利組合）と武庫井組が水をめぐり、武庫井組、三ヶ村庄屋がはりつけ。また一八二三年には、下流の千三百人の村人が上流にある庄屋へ押しかける。など当時の水の争いは命がけだったことがわかります。これを裏付けるような四百年前の実話を紹介します。



武庫川

『武庫川は古来、度々大洪水を起こす暴れ川。しかし、平生の水量は少ない。氾濫でできた枝川に堤防を築いた所からこの物語は始まる。堤防は鳴尾村への古い水路を遮断した。そんな折、数年続きの大干ばつがやってきた。来る日も来る日も日照りが続き、鳴尾村の田の稲は今にも干上がりそう。水不足に苦しんだ鳴尾村民は、上流の瓦林村に水を乞うが、余水のない瓦林村に断られた。こうなれば無理にでも水を引くしかない。勝手に隣村の水路から水を引くのである。お上に知られば、死罪は免れない。しかし、自分たちの村の存続には代えられない。決心した村人たちは底を抜いた酒樽を繋ぎ、密かに川底に埋めて、瓦林村から取水した。稲は生き返ったが瓦林村は怒り、近隣の村も巻き込み死傷者まで出る騒乱となった。豊臣氏の奉行（片桐且元・増田長盛）は、自首した鳴尾村代表に「命が欲しいか水が欲しいか」と問うと、異口同音に「水が欲しい」と答えた。極刑の代償に水利をもたらした二十五人を村民は「義民」と称えたが、中には、一家の柱・父親の身代わり処刑を志願した十三歳の少年もいたと云う。一方の当事者・瓦林村民も二十一人が処刑された。』

豊臣政権としては喧嘩停止令により両成敗としたようですが、この悲話は、遠く奈良の興福寺にまで伝わったと言われています。

## 『聴く本』で読書する！？

先日、白内障を手術した友人から『聴く本』を聴いているとの情報があった。手術後も手芸や家事をしながら『聴く本』を聴いているのだとか。何やらややこしいが、ようするに本屋さんに行かなくても、目が悪くても、そして“ながら”でも好きな本をスマホで選んで聴けるらしい。彼女は、ひと月1500円で12万冊以上が聴き放題の「オーディブル」と契約し、スマホでお気に入りの本を聴いている。目が疲れないし、早く読みたい時は、1.5倍速で読んでいると、いたく気に入っている様子。読み手も人気俳優や声優を起用しているのだとか。話題の文芸作品やエッセイ、歴史、ミステリー、ビジネス書、児童書とそのジャンルは幅広く、本を選ぶ時は、本の表紙が出て来るので、非常に分かり易い。高齢者にも人気！と謳っている。

これでは益々、本屋さんが町から消えるのでは？と心配するが、目が悪い人や長期入院を余儀なくされている人、忙しい人などには朗報かも・・・。

友人の「オーディブル」の他にも配信している会社があるが、いずれも無料体験ができるので、一度、試してみてもいいかも・・・。

## 令和6年度

# パストラルシニア大学

今年度も多彩な講師をお迎えし、充実した内容でお届けしています。講師陣からその受講姿勢を絶賛されていた皆さま。今年度も是非ご参加下さい。

**\* 毎回フロントにお申込み下さい(席に限りがあります)**

**\* 当日は、学生証も忘れずに！**

## 第6回

# 日本を揺るがした明治の「神戸事件」

・日時：11月22日(金)14時

兵庫津ミュージアム学芸員

## 加納 亜由子 氏

明治政府がまだ始まって間もない頃、神戸（神戸大丸あたり）で大変な外交事件が起こる、伊東博文や五代友厚も巻き込んだ『神戸事件』の講演を是非！



責任をとった  
滝善三郎切腹の図